企画展

空襲被害と その影響を 受けた 人々

空襲を受けた人々の
戦争は終わっていない

世田谷から考える

2026.
7.25 土
｜
9.30 水

せたがや未来の平和館

主　　催：せたがや未来の平和館（世田谷区立平和資料館　世田谷区池尻1-5-27　☎03-3414-1530）
協　　力：東京大空襲・戦災資料センター、名古屋市、愛知・名古屋 戦争に関する資料館、世田谷区立郷土資料館
開館時間：午前9時ー午後５時（入館は午後４時45分まで）
休 館 日：火曜日、8月12日（水）、9月24日（木）　　[8月11日（火）、9月22日（火）は開館]
※イベント等開催のため右記の日程の午後1時～4時はご覧になれません。8/1、8/16、8/29、9/12、9/20、9/26
その他、最新情報はホームページに掲載いたしますのでご確認ください。

ホームページ

2026年7月25日㈯～９月30日㈬　　せたがや未来の平和館 企画展

空襲被害とその影響を受けた人々

―世田谷から考える―

戦争が終わったからといって、被害を受けた人々にとって「戦争」は終わっていません。

家族を失った人、身体、そして心に傷が残った人・・・多くの人は戦後も長きにわたり苦痛を抱えてきました。

世田谷区による見舞金支給を機に企画した本展では、空襲被害とその影響を受けた人々の体験に静かに向き合うと同時に、平和と尊厳の回復を求めた被害者たちの歩みにも思いを寄せていきます。

絵　佐藤良助氏

別れ

浅見洋子

一九四五年三月一〇日　未明
風の音と　重なりながら
Ｂ29の飛来音がした
城東区大島の夜空には
真っ赤な炎が　爪を立て
熱風が　渦巻き
燃える　電線が
荒れ狂っていた

母の背に負ぶわれ
命をつないだ
一歳の　幸一
この夜　父は
町内の人の
安否を気遣って
妻子を　逃がし
その場に　止まった
彼は　父の顔も　声も
知ることなく育った

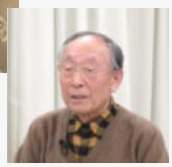
母は　五人の子を
女手一つで育てた
母は　生活保護を
受けながら
父の分まで　働いた

中学を出た兄さん
中学を終えた姉さんも　働いた
極貧生活は　幸一から
笑顔と言葉を　奪っていた
彼は　焼け跡のバラックから
小学校に入学した

彼は　友だちに
心を開くことができなかった
彼は　先生に
心を開くことができないでいた
教室の隅で　黙々と
絵を描きつづける幸一だった

関連イベント

申込方法：せたがやコール　☎03-5432-3333　FAX03-5432-3100
または下記の申込フォーム（二次元コード）より



●持田信重さんの空襲体験の語り部お話会

8月1日（土）14:00～15:00　定員25名・事前申込（7月15日締切・抽選）

3歳で東京大空襲を体験し、妹を失い自身も重いやけどを負った持田信重さん。
戦災を乗り越えた幼少期や戦後の歩みをお話していただきます。

●詩人・浅見洋子さんとともに詩を朗読する会

9月12日(土）14:00～16:00　定員12名・事前申込（8月15日締切・抽選）

空襲によって人生に癒えない傷を負った人々の悲しみや願いを詩に紡いだ浅見洋子さんと、
体験者の思いを感じ、今の私たちとをつなぐ時間をともにしましょう。